

# 第1章 10の地域の将来展望



## 第1節 地域づくりの基本的な考え方

本市は、自然環境や産業など、地域によりそれぞれ特色が異なりますが、一体性を保ちながら、各地域が特性をいかし、機能を補完することで、より一層市全体の魅力を高めていかなければなりません。本市のまちの将来像である「歴史・自然・文化が薫る 誇りと輝きに満ちたふるさと」を実現するには、各地域が個性を伸ばすとともに、それぞれ機能を分担するなど、各地域がその持てる力を最大限発揮することが必要不可欠です。

また、地域の個性をいかし、魅力的で活力ある地域づくりを進めるためには、地域を構成し、地域づくりを担う市民一人ひとりと行政が、地域づくりの目標を共有し、一体となって取り組むことが求められます。

そこで、地域の特性を踏まえ、その将来像を地域ごとに明示します。

地域別将来展望は、本計画におけるまちづくりの目標や目標達成のための方針を、それぞれの地域の現状や課題を踏まえ、地域ごとに設定することで、地域の個性をいかした将来像を示すとともに、そこに住む市民にとってより一層身近な計画とするためのものです。

## 第2節 10の地域区分

地域区分については、地区のコミュニティを基本としながらも、これまでの長い歴史のなかで培われてきた歴史や文化、現在から将来にわたって担うべき機能など、地域の特色に着目して区分します。

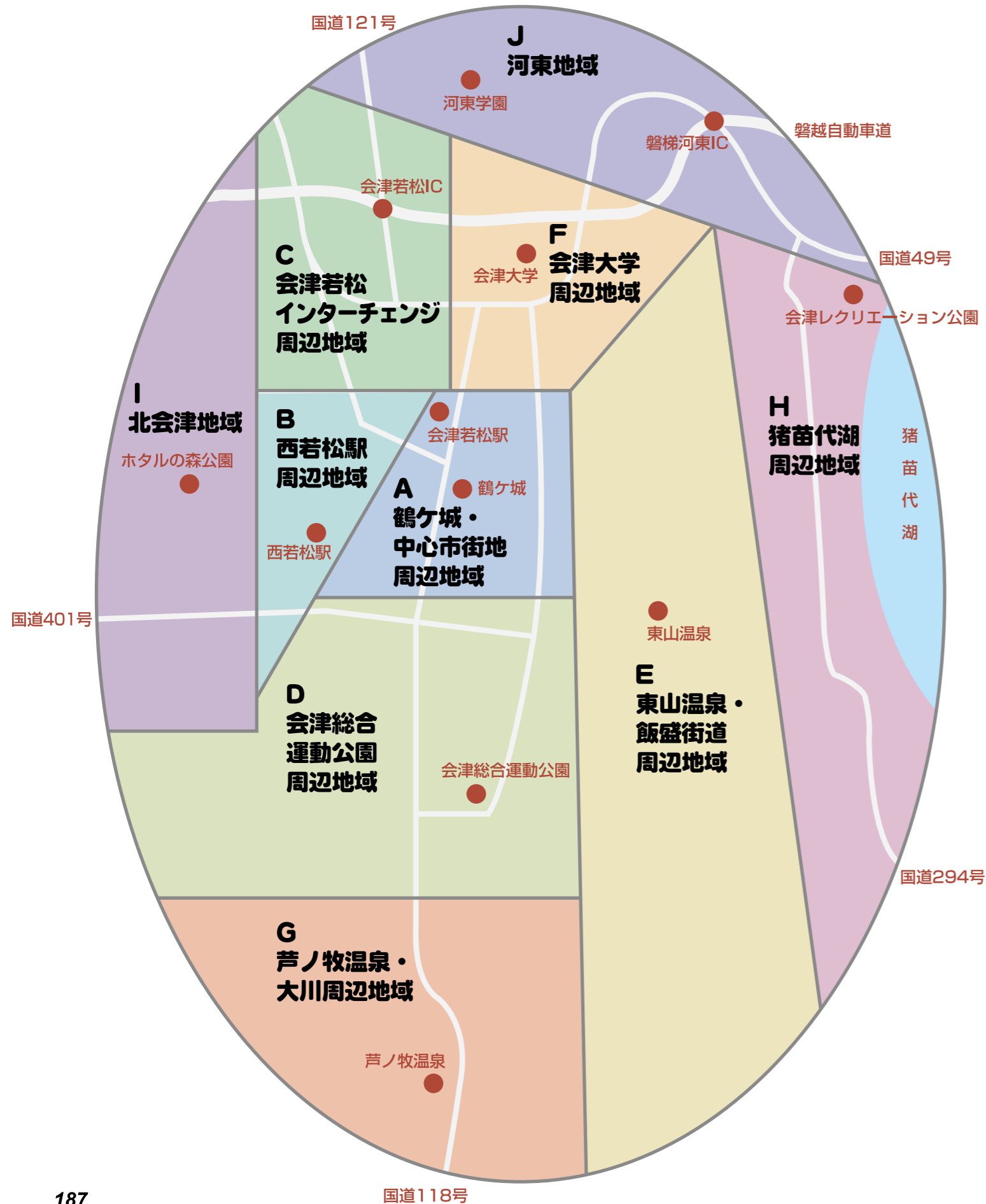
地域を区分する場合、主要な道路や河川、鉄道などを境界とする手法が一般的に使われます。しかしながら、そのように地域を分けてしまうと、道路を一本隔てただけで、地域づくりの方針が全く異なるというようなことが生じてしまうことから、地域の将来像を示すための区分の方法としては適当ではないと考えます。

そこで、この地域別将来展望においては、地域の境界を明確にせず、核となるような施設などを中心として広がるイメージで地域を設定します。

ただし、北会津地域及び河東地域については、新市としての一体感が醸成されるまでの間は、旧町村を単位として区分します。

以上のことを踏まえ、市域を次の10の地域に区分し、地域の将来展望を明らかにします。

## 【地域区分のイメージ図】



## 第2章 地域別将来展望

地域名	主要な施設	地域の将来像
<b>A</b> 鶴ヶ城・中心市街地 周辺地域	鶴ヶ城、市役所、会津若松駅、七日町駅	鶴ヶ城を中心として、歴史と伝統がいきづく、人と人がふれあう賑わいのあるまち
<b>B</b> 西若松駅周辺地域	西若松駅、湯川、阿賀川	西の玄関口・西若松駅を中心として、くらし・商業・工業が調和して発展するまち
<b>C</b> 会津若松インター チェンジ周辺地域	会津若松インターチェンジ、会津アピオ、高久工業団地、神指城跡、高瀬の大木	インターチェンジを中心に、農業・商業・工業が調和して発展するまち
<b>D</b> 会津総合運動公園 周辺地域	会津総合運動公園、会津若松工業団地、一ノ堰工業団地	くらし・商業・工業・農業といった多様な機能がバランスよく発展するまち
<b>E</b> 東山温泉・飯盛街道 周辺地域	東山温泉、飯盛山、背あぶり山、小田山	いにしへの道がつくる、緑豊かな自然と東山温泉をいかした賑わいのあるまち
<b>F</b> 会津大学周辺地域	会津大学、会津学鳳中学・高校、大塚山古墳	良好な住環境が整備され、会津大学を中心に文教地区として活気のあるまち
<b>G</b> 芦ノ牧温泉・大川 周辺地域	芦ノ牧温泉、阿賀川、芦ノ牧温泉駅	豊かな自然がもてなす、南の玄関口として発展するまち
<b>H</b> 猪苗代湖周辺地域	猪苗代湖、赤井谷地沼野植物群落、会津レクリエーション公園	猪苗代湖などの恵まれた自然をいかした躍動感あふれるまち
<b>I</b> 北会津地域	ホテルの森公園、阿賀川、北会津地区シビックゾーン	みどりの田園景観のなかで、農業と良好な住環境が調和して発展するまち
<b>J</b> 河東地域	河東学園、磐梯河東インターチェンジ、県立会津総合病院(仮称)、広田駅、堂島駅、東長原駅	自然と調和し、文化を守る心豊かで活力あふれるまち